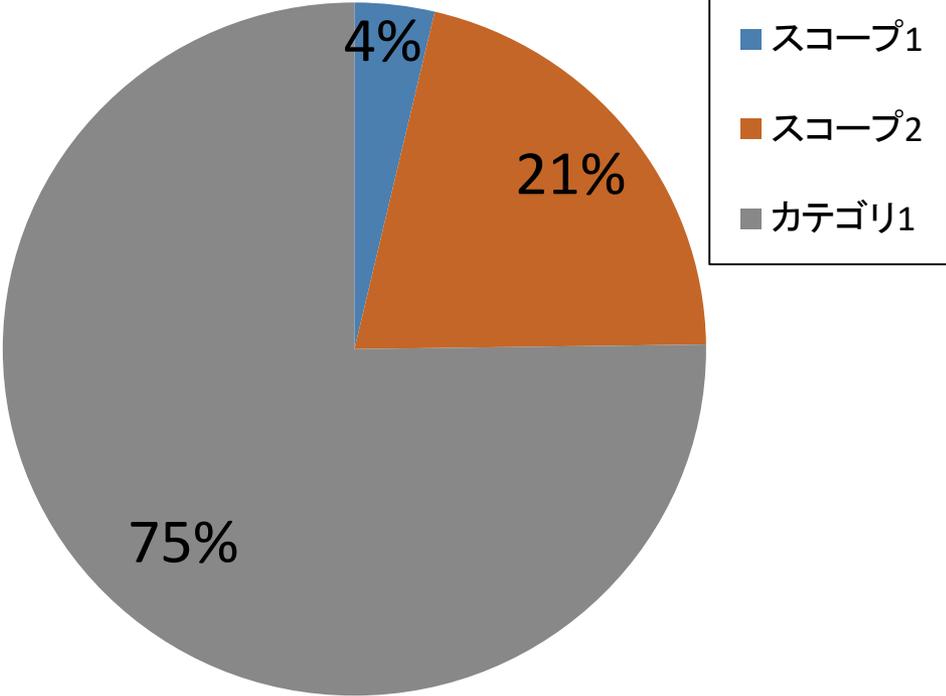


株式会社名城ナノカーボン

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：炭素材料開発● 事業概要：カーボンナノチューブの開発、製造、販売
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標 2030年に2018年比で50.4%削減 取り組みとして営業車のEV化と電力の再エネ化を推進</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> サプライヤーとの連携によりScope3カテゴリ1の削減に取り組む。 (容器包装の軽量化、リサイクルの推進等) また顧客のScope3削減に寄与するような温室効果ガスから炭素を固定化した新素材開発のため研究開発投資を増加させる。</p>

株式会社名城ナノカーボン

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況 <p>スコープ/カテゴリ別排出割合</p>	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 4.5 [tCO2]								
	 <table border="1"><caption>スコープ/カテゴリ別排出割合</caption><thead><tr><th>スコープ/カテゴリ</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>スコープ1</td><td>4%</td></tr><tr><td>スコープ2</td><td>21%</td></tr><tr><td>カテゴリ1</td><td>75%</td></tr></tbody></table>	スコープ/カテゴリ	割合	スコープ1	4%	スコープ2	21%	カテゴリ1	75%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 25.9 [tCO2]
	スコープ/カテゴリ	割合								
スコープ1	4%									
スコープ2	21%									
カテゴリ1	75%									
	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : 92.4 [tCO2]									

株式会社名城ナノカーボン

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資撤退につながることも懸念される。● また環境への取り組み（CO2削減の定量化）を積極的に実施することでESG投資のチャンスにつながると想定される。● 当社の主要顧客はESGに積極的であり、サプライヤーに対しても、今後CO2の削減要請が高まることが想定される。● 自社で開発した温室効果ガスから炭素固定した新素材の普及が促進される可能性や、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標を設定。1.5度目標の水準に整合する削減目標となっている。● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待。

株式会社名城ナノカーボン

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 代表自ら目標案を検討。社内で環境情勢の理解・取組の必要性を共有するために支援事業の面談に社員が同席。温暖化のリスクと機会を検討したことで、野心的な全社目標の必要性を共有できた。● 目標の実現可能性について社内で意見があったが、電力を再エネ化することで実現可能なことを確認。社会的要請に応じてバックキャストで目標を設定するという方針を説明し、理解を得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 工場で使用する燃料の燃焼によるCO2削減等が課題である。